

白馬村図書館施設検討委員会とは

白馬村図書館施設検討委員会は、白馬村教育委員会の諮問機関として、白馬村図書館のあり方に関すること、施設整備に関することについて調査検討を行うことを目的に設置されました。委員は15名以内とし、任期は教育委員会に報告するまでとしています。報告は30年度中の予定です。

委員会のこれまでの活動経過

委員として村内各団体の代表や個人また公募により15名が委嘱されました。委員会では、29年度に5回の会議を開催し、また村民や学生などを対象としたワークショップを実施してきました。会議では、村民から出された意見を参考に委員からも多くの提案が出されました。また2回目の会議から、**小布施町図書館元館長の花井裕一郎氏**に図書館建設・運営の専門家として会議に参加いただき、アドバイスをいただきながら会議を進めていきました。

これまでの委員会の活動は次のとおりです。

○第1回検討委員会（H29. 7. 25/15:30/役場庁議室）※（開催日/開始時間/場所）

始めに各委員に委嘱状が交付されました。そのあと冒頭のあいさつとして教育長から「図書館を充実した施設として整備するためにこの委員会を立ち上げました。村民の希望やニーズを把握し、村民の文化的な活動や交流の場として知的な活気とにぎわいあふれる図書館となるよう委員の皆様にお力添えをお願いしたい。」とありました。

委員長に富山正明氏、副委員長に小林英雄氏が選出されました。

委員会では、新図書館の建設場所、施設の内容や規模について検討していくこととしました。

会議の中で委員から、生徒が勉強できる学習スペースの確保、村民との距離が近い図書館、白馬らしい明確なモットーを持った図書館、学校との蔵書連携等の意見が寄せられました。次回から前述した花井裕一郎氏に会議に参加いただいて図書館づくりを進めることとしました。

○第2回検討委員会（H29. 9. 27/16:00/役場 201. 202 会議室）

今回から委員会のアドバイザーとして参加いただいた花井氏より「29年度は図書館を利用する人しない人の意見をリサーチしていく。また、委員会のメンバーで視察やワークショップを行い、様々な人と意見交換することが大切である。」とあいさつがありました。また、全国の図書館施設の建設について、最近は複合施設としての図書館が増えてきており、例としてホールや運動施設、美術館などがあるとのことでした。

図書館建設については、白馬村としては山岳という世界に誇るものがあるので、**山をメインに**進めていけばどうかと提案がありました。

委員長からは、白馬高校のしろうま学舎の生徒が平成28年12月に作成した「白馬村図書館を交流拠点とするための提案」を活用することが大切だと意見がありました。この提案の内容は、

①村民が集まることのできる憩いの場、②世代を超えて交流できる場、③本を通じた交流が生まれる場という「交流」がキーワードの3つの理想像をもとに解決策を提案しています。

今後は、村民の意見を広く吸い上げるためにワークショップを開催していくこととしました。

◆ワークショップ（H29. 10. 17/16:00/白馬高校公営塾）公営塾塾生 7 名

〃 （H29. 11. 3～5/-/文化祭会場ウイング 2 1）意見募集

〃 （H29. 11. 17/10:30/ふれあいセンター）シニアクラブ 6 名

〃 （H29. 11. 17/14:35/中学校図書館）1 年生 3 0 名

※詳細は「平成 2 9 年度白馬村図書館施設検討委員会報告書」

○第 3 回検討委員会（H29. 11. 17/15:30/中学校図書館）

中学校でのワークショップに引き続き、中学校図書館にて開催しました。

まず始めに白馬中学校の山岸司書から中学校図書館についての説明がありました。普段から人が来るように工夫したり、居心地のよい環境づくりを目指していると報告がありました。

つぎに白馬村図書館の糸氏司書から現在の図書館の状況について説明がありました。スペースが狭いことが 1 番困っていることとのことでした。

事務局からはワークショップの報告がありました。また今後のスケジュールについて報告がありました。委員長からは、検討委員会是有識者会議のチェック機能の立場になるとの意見がありました。

委員からは、図書館行きバスの運行、図書館を核としたまちづくり、フェイスブックやケーブルテレビの活用の提案がありました。

◆ワークショップ（H30. 1. 12/15:30/白馬高校）高校生 1 3 名

〃 （H30. 1. 13/10:00/役場 201. 202 会議室）一般参加者 5 5 名

※詳細は「平成 2 9 年度白馬村図書館施設検討委員会報告書」

○第 4 回検討委員会（H30. 2. 26/15:30/ふれあいセンター）

事務局より 2 9 年度の報告書をまとめ、教育委員会へ提出すると説明がありました。また 3 0 年度に答申を行う予定と説明がありました。事務局で作成した 2 9 年度白馬村図書館施設検討委員会報告書（案）の説明を受け、内容について協議しました。

委員長からは「図書館の基本の理念を何に置くのがよいか、核となるものを導き出したい。」との意見がありました。

宗川委員より幼稚園でのアンケート結果の報告がありました。

委員からは、みんなが集まれる場所、雨の日に行って楽しい場所、時間が潰せる、くつろげるような中核施設などの意見がありました。

花井氏からは、本にこだわるのではなく、みんなの悩みを解決するのが図書館であるとの意見がありました。

委員長からは、基本コンセプトを山にしたらどうかと提案がありました。コンセプトから建設

場所が見えてくる、キャッチフレーズを決める、ぬくもりのある白馬などの意見がありました。
また、図書館に來ない人の意見収集が課題であるとの意見もありました。
館長公募に関しての意見も出ました。

◆ワークショップ（H30. 2. 26/18:00/ふれあいセンター）役場職員向け
花井氏を講師に役場職員向けにワークショップを行いました。

○第5回検討委員会（H30. 3. 8/15:30/役場 302 会議室）

事務局より29年度報告書（案）について説明があり、コンセプトや理念、また白馬の自然や山を生かした考えを載せる予定と説明がありました。

委員長からは、キャッチフレーズを来年度に基本構想を作成する業者をお願いしたいと発言がありました。また、答申については、29年度報告書（案）の中の「新図書館の建築計画」の内容をより具体的にしていくこととしました。

コンセプトの中心は自然とぬくもりとし、「ケルン」という山岳用語を道標にしてストーリー性を持たせることとしました。図書館は道標を与えてくれるもの。道標は手引きするという意味があります。

委員の意見をまとめて29年度の報告書（案）を作成し、委員長に確認してもらい、郵送で委員に配布して確認してもらうこととしました。

新図書館建設のスケジュール

	29 年度	30 年度	31 年度	32 年度	33 年度	34 年度	35 年度
図書館長募集		↔					
検討委員会	↔	↔					
有識者会議		↔					
基本構想策定		↔					
基本計画策定			↔				
設計				基本設計 ↔	実施設計 ↔		
建設工事						↔	

○検討委員会

30年度は4回開催の予定で議論を進めていきます。

第1回、第2回とかけて昨年度のワークショップ等の住民意見を集約し、委員会で意見をまとめ、建設場所や施設内容を検討します。

第3回では、前2回の検討内容や有識者会議を参考として、答申書（案）を作成します。

第4回では、答申書（案）の仕上げを行います。

30年度に開催する有識者会議や、基本構想の策定委託業者と連携して協議を進めていきます。

○有識者会議（正式名称は白馬村図書館等複合施設に関する有識者会議という）

検討委員会は白馬村図書館のあり方や施設整備について調査検討する機関ですが、有識者会議は図書館を含めた複合施設としての建設について検討するため、各分野からの専門家によって構成される機関です。委員は10名以内としており、これから委員を決定し、年4回程度の会議を開催します。担当部局は総務課となります。

○基本構想策定

白馬村図書館施設等基本構想は、民間業者に委託して策定します。委託業者は、6月6日にプレゼンテーションを行った結果、花井氏の一般社団法人日本カルチャーデザイン研究所に決定しました。有識者会議や検討委員会の支援やワークショップ（3回予定）の開催を行い、30年度中に基本構想を策定していただきます。